

令和3年度日本水産学会春季大会

参加報告

- ◇期 日 令和3年3月28日(日)
- ◇場 所 本校探究ゼミ室(オンライン参加の為)
- ◇参加者 SS生物部員 8名
- ◇指導者 SS生物部顧問 真野佳余先生

日本水産学会春季大会では、全国の高校生が「水産学」「水圏の生物学」「水圏の環境学」に関する研究発表を行う。今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン(Zoom)での開催となった。Zoomは2月に開催された福井県合同課題研究発表会でも用いたので、スムーズに操作することができた。

今回は本校の2班が、それぞれ「トミヨの環境DNAの検出と生息環境について」、「ハゼ科魚類とテッポウエビ類が共生に至るまで」について発表した。この研究会は本来「高校生によるポスター発表」なので、前もってポスターを提出し、26日から他校の要旨やポスターを自由に見ることができた。28日当日の発表形式は自由だったので、私たちの研究をより詳しく伝えられるプレゼンテーションソフトを用いて口頭発表を行った。



直接話すことができない分、ゆっくり丁寧に話すことを意識して説明した。また、特に伝えたい部分を強調して話すことを心掛けた。質疑応答では、質問の内容を正しく理解し、それに対する的確な回答をするのが難しかった。また、他校の生徒からは、初見であるが故に新しい視点からの質問や、教授からは、研究者ならではの鋭い指摘もあり、今後の研究・発表の参考になった。そして、「ハゼ科魚類とテッポウエビ類が共生に至るまで」の班は奨励賞を受賞することができた。

他校の発表には、自分たちが考えたことのないような題材のものもあり、とても面白かった。積極的に質問したり、内容について話し合ったりすることで充実した時間を過ごすことができた。



今回の研究発表会は全国の高校生や研究者と関わる貴重な機会であり、発表者としても聞き手としても得るものが多かった。特に、研究の点でも発表の点でも今回得たものを今後に活かしていこうと思う。また、慣れない状況での発表ではあったが、今後もオンラインでの発表が行われる可能性があることから、良い経験になった。全体を通して非常に有意義な1日だった。

(SS生物部 吉川 記)